

酒匂川のアユの産卵状況（10～11月）

内水面試験場では、毎年10～12月に酒匂川漁協と共同でアユの産卵場調査を行っています。アユは秋に産卵しますが、浅くて少し流れのある瀬、底質はザクザクした砂利が好みます。調査は、実際に川の中に入って、アユの産卵場所をさがして、手網で砂利をすくい、アユの卵を数えます（写真1）。今回は10～11月の産卵状況について速報します。

今年は10月下旬に初めて小田原大橋下流で産着卵が確認され、その後も、赤橋下流、飯泉橋上流、小田原大橋下流に産卵場が形成されています。特に赤橋下流（写真2）と小田原大橋下流・左岸の産卵場（写真3）は規模が大きく、継続して大量の未発眼卵（産みたての卵・写真4）・発眼卵（発生がある程度進み、眼ができた卵・写真5）が確認されています。また、今年は支流の狩川や金瀬川でも産着卵が確認されています。

卵からふ化したアユの赤ちゃんは川を下り海へと出て行きます。そして春になると成長して7～8cmになった若アユが元気に川を遡上します。今年は台風もなく産卵状況が良好であったので、来春のアユ遡上は期待できそうです。



写真1 アユの産卵場調査の様子



写真2 赤橋下流の広いアユ産卵場



写真3 小田原大橋下流は規模も産着卵も多い



写真4 産卵したばかりのアユ未発眼卵



写真5 産卵して発生が進んだアユ発眼卵